

高井戸小学校 4月21日18:30～学校運営協議会第1回議事録

○内藤委員挨拶

今年度第1回目のCSです。師岡校長の後、伊勢明子先生が赴任された。

○校長挨拶

4月より着任した伊勢明子です。全校朝会で名前について漢字とひらがなで児童にも説明しました。校門にたっているときにも、児童は全校朝会のあとから挨拶をしてくれるようになった。創立147年の学校に着任して身が引き締まる思い。子供のため、学校のために尽力します。お力添えをよろしくお願いいたします。

○内藤委員

体調のこともあり、前校長に相談し、鬼澤委員が会長を引き受けてくださるとのことなので、会長として鬼澤さんをお願いすることになった。

○委嘱状の伝達

○鬼澤会長の件については、引継ぎを受けております。皆さんの承認を確認。

○会長挨拶

前校長から連絡があり内藤元会長もいらっしゃるとのことので、引き受けました。地域のため学校のために尽力していきたいと思う。

○内藤英夫委員

インデックスを付けた資料について、CSの委員に確認するように依頼を受けています。今日は持ち帰っていただき、次回のCS時に、質問などをもちより、議論し、中身を明確にしてほしい。

○自己紹介

上野：PTA会長を拝命しました。ご挨拶にきました。CS担当は土志田さんが参加。

土志田：PTA役員2年目。上野さんの代理という形で参加。よろしくお願いいたします。

蕨南：もともとファミリー会の会長をしていた。学校支援本部長として参加。ファミリー会も引継いでいる。

高野：4代にわたり、この学校に世話になっている。元高井戸町会長。

青木：CSができたときから在籍。ファミリー会にも参加。高井戸小建て替えのときから参加。学校支援本部、読み聞かせボランティアもやっている。

齋藤：最後の1年。現在はボランティアを中心として、折り紙を教えている。

蘆塚：地域とのネットワーク活動を行っている。42年働いた経験を生かしていきたい。

望月：高井戸町会の副会長。区民センターの評議会委員。

内藤博孝：別の部署で入っているがよろしくお願いいたします。

内藤秀夫：久保田先生のときに評議員として参加するようになった。子供と妻がこの学校の卒業生。お手伝いできることをやってきた。今までの経験を生かして、校長先生を支え、よい学校にしていきたい。

鬼澤：委員をして4年目。子供3人が高井戸小を卒業した。鶴巻先生とのご縁で参加。教育委員会や行政の経験から、情報提供ができればと思っている。

○校長挨拶

3月までは浜田山小で勤務。787名、26学級。心機一転頑張っていきたい。杉並の経験が長いので、今までの校長先生にご指導いただいていた。

○学校経営方針について（資料をもとに説明）

教育目標について

学校の現状、成果と課題、令和4年度の重点目標を3つ、教師の授業力の向上について

前校長から引き継いだこと、子供に学力をつけることが学校の務めと考えている。学力調査を根拠にしている。子供を主語にした学びが国の方針。保護者の評価（教育調査）を背景に乗せてある。数値にこだわることはないが、客観的にみる物差しの一つとして数値を使い、指標として使っている。課題をよくするために教職員が一

丸となって進んでいきたい。(数値をもとに、学校の様子や現状・課題等を説明) 子供が考え、解決していく学び、児童の豊かな心と、健康な体について。杉並区の連携について。具体的な進め方については資料裏面参照。ふれあい月間、いじめについて。体力テストの結果について。若手教員の育成について。学習を自分の力で解決する力を育てるために、杉並では学びの構造転換として授業をよくしていこうとしている。区の特設課題調査については今年6年生のみになった。コロナで2年。感染防止、心のケアを進めていく。子供の様子を細かくみて、改善を進めていきたい。ICT 一人一台タブレットについては、今頑張っているが、情報等を公開していきたい。校内研究(授業を磨くためのもの)を充実させる。管理職が授業をみて教員の授業力を高めていく。ICTの活用、若手の教員の授業力を向上させていきたい。

忌憚のないご意見をいただき、よりよいものにしていきたい。

青木：体力的には、中間ぐらいの位置だと思う。急には上がらないと思う。地域の特性なのかも。穏やかな地域の中で子供は育っていく。CSは学校に協力する体制。先生方も大変だとわかっている。先生方の困っている内容等にも寄り添っていきたい。

会長：体力はそこそこだということ。数字にとらわれずに学校教育活動を進めてほしい。

土志田：目指す学校像に「学び残しをなくす」という言葉について、具体的なデータがある？

富士見丘小、富士見丘中は小中一貫になると聞いている。高井戸小は小中連携について想像しにくい。教えてほしい。

会長：公立4校に進学する。学び残しについては？

校長：前校長の教育課程にあったことばとして「学び残し」があったので、その言葉をつかった。小中連携についても同様。今年度はこの形で。皆様のご意見もいただきながら、進めていきたい。

会長：その学年で身に付けてほしい内容を習得できないことを表している？

土志田：子供によって、学び切れないこともある。昔からあるテーマだと思う。制度もふくめ、対応ができるとよいと思う。意識されているのかなと思った次第。

内藤秀夫：小中連携は、保護者にも認識が低い。学校自体も認識が低い。認識している言葉の受け取り方と認識のずれがある。高井戸小の場合には、他と理解度が違っている。

校長：浜田山小も同様。

青木：高井戸は4校に分散。少数派になっている。杉並区の学区の作り方にも問題があると思う。

高野：高井戸小は4校に分散して、リーダーシップをとれているということも聞いている。

上野：一長一短だと思う。

内藤：高井戸小の子供が進学して、穏やかに過ごしている。問題があるとは聞いていない。モラルをもった子供が育ち進学している。高井戸小の子供はコミュニケーションの取り方が上手だと思う。視野が広がっている。高井戸の歴史があるからだと思う。高井戸小のプライドとして取り入れるのも面白いかも。

会長：高井戸小らしい小中一貫を実践しているといえる。社会に出るときに、役に立っている。

内藤：多様な対応能力を育成されていると思う。

会長：小規模校だとクラス替えもできないところもある。学校内で人間関係、対応力が培われているかもしれない。

内藤：高井戸は昔から中心となっていた。古文書にもある。歴史を知っているメンバー。6代高井戸小に来ている。

蘆塚：高井戸小は、一般的にいう小中一貫ではないと話から理解した。一貫として取り組む良さをどのように考えているのか。

校長：杉並の長年の施策。小学校の教員は中学校へ続く教育であると教えてもらったと思っている。中学校も高校へのつながりを円滑に進めていくと考えていると教わってきた。

会長：区として、小学校と中学校が義務教育。子供が戸惑わないようにということ。

蘆塚：小中高までの切り分けで混乱が起きていない？やりにくさや矛盾などはないのかと思っていた。

会長：根本は義務教育が中学校までだということ。義務教育かどうかで切れる。できる範囲でやろうとすると小中が一貫ということだと思う。

齋藤：ICT 自立支援システムとは？柏原先生について？

校長：子供が自分で考え、解決する方法を考え、ツールを使い、答えを見出し、分かったことを共有でき、さらに深く調べる支援のシステムを電通大の先生が作っている。学校として多様な方法の一つとして取り組みたい。2 回ぐらい今年度実践したい。

齋藤：ICT を使って学びを深める。教員が ICT になれていく。天沼小が HP では進んでいる。教員の慣れが必要。ぜひ、推進してほしい。

○地域の各団体から

内藤英夫：議事録をまとめ CS だよりを作成するという方向でどうか。

望月：農園等の見学を実施予定。7 月 27 日、28 日に「ちびっこ盆踊り」は中止。7 月 30 日 31 日に代替えの行事を実施予定。昨年は 1 2 0 0 人の募集がきたので、2 日間にした。

令和 4 年第 2 回の予定 5 月 2 6 日（木） 1 8 : 0 0 ~ 高野さん欠席